

---

## ハーモニー～今月のお代官さま 2009

### 4月～ハーモニー

昔、僕は一人で生きようとしてた♪ 誰も信じず一人でこっそり生きてた♪  
でも今では とても とても とても♪ おーお、生きてゆけない♪

これは、チューリップの「ハーモニー」という隠れた名曲ですが、とても素敵なフレーズだと思いませんか？

心機一転なんて言葉が似合う4月、環境の変わる人も、そのままの人も気分を変えて新しい事を始めませんか。いつもすれ違っていたあの人が、人生の転機になるような事を持ってきてくれるかも知れませんよ。



二島クラブも今期の社会人チームの登録、合宿企画、二島杯と新しい事いっぱい始めたいと思っていますので、よろしくご協力願います…って「毎年同じことしてるだけやんけ～！」などと突っ込まない。けど、突っ込みを入れた皆さんこそ、新しい企画を考えてくれる人だと信じています。

批判するのは簡単ですが、「私ならこうする！」なんて企画を持って、カンカチコに固まったお代官様の頭に刺激を下さい。

新しい時代の二島クラブを作るのは、そんな企画をくれる「あなた」かも知れません。そして、古いものと新しいものを融合させて、素敵なハーモニーを奏でる事ができたら最高だと思いませんか。

2009年4月何か新しい事が始まる予感…

平成21年4月11日記

### 5月～始動

社会人リーグに向けてチーム登録の時期です。

男子は少しの入れ替えはありましたが2チームを登録。

女子は残念ながらメンバー揃わず撤退という結論に落ち着きました。各部で常に優勝争いに絡んだ強力なチームでしたが、天からの授かりものを受けたり、日曜日に休めない仕事だったり、世代交代可能な体制が整う前に活動停止となりました。



(ニリンソウ)



(山シャクヤク)



(イチリンソウ)

女性チームの維持は難しいという話はよく聞きますが、確かに、女性特有の理由や旦那さんの転勤などの家庭事情などで、継続するのは大変です。まあ、何年かして合宿や大会や練習会などで社会人チームを結成したくなったら復活して、最下部から出発すれば良いじゃないですか。

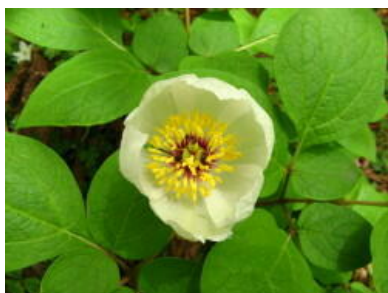
その日まで「継続は力なり」で男子部が頑張りましょう。



(つばき)



今期も9月と来年3月の二島杯、10月の合宿、8月の講習会など例年行事を継続するつもりです。チームの垣根を越えて楽しい事を作り上げましょう。



(アヤマメ?しょうぶ?)

平成21年5月14日記

### 6月～コーチ

青年協会での講習会や土曜の朝の子供相手などしていると、「コーチ」なんて呼ばれる事があります。思うに、コーチなんて呼ばれる人は、それ相応の実績があって勝つ事を教えるトレーナーで、特に子供たちを相手にするなら、基礎体力をつけて上の段階の指導者に引き渡すのが仕事なんて感覚で見えています。

お代官様などは、実績は無いし、腹筋・背筋・ランニングなんて熱血系のトレーニングが苦手で、苦勞して上達するよりも、楽をして上達すればそれで十分・・・なんて甘い考えで「コーチもどき」しています。



( てっせん )

フットワーク・手首強化・クリアあたりを重点的に教えるのが上達への早道かも知れませんが、楽しく継続してもらえるのが一番大切で、最初はフリーで打って、あとは得意なショットを探して、良い所を伸ばしてあげればそれでいいと思っています。本人が、楽しく続けてもっと上を目指したいと考えて、やがては自発的に基礎部分の大切さがわかった時点で、苦しい練習を始めればもっと上達するはずでしょう。特に社会人から始める人には、練習後のビールを美味しく飲むためにも、頑張っ

て欲しいと思っています。



「どうしたら上手になりますか？」なんて基本的な問いかけには、

「道具を大切にしてください！」と答えます。

子供には楽しいことするには、ラケットやシャトルが無ければできないし、ポールやネットを大切に扱わなければバドミントンをする資格がないと言います。ショットに失敗してネットを叩いたりする姿を見ればきつく叱りますし、場合によっては退場を命じます。

大人には、借り物のラケットで練習するより、自分の働いたお金で購入したラケットを使用する事をお勧めします。高いお金を出して買ったら、道具に愛着を持つし、使いこなす事を考えるでしょ？

参考まで、競技は違いますが大リーガーの世界のイチローが、同じ事を言いますね。というより、イチローのセリフをパクったのかも知れません。



いずれにせよ、お代官様としましては、コーチと呼ばれようと下手くそと呼ばれようと、体育館を練習に参加してくれる皆さんの「羽根を打つ喜びの笑顔」で満たしたいと思っていますので、老若男女、上手下手を問わず二島小学校や門真市民プラザに遊びに来て下さい。

平成21年6月7日記

7月～どたばた

七夕、皆既日食、衆議院解散から天神祭に祇園祭。

あわただしい7月でしたが、二島クラブにとっては、輝かしい記録。社会人大会、若手主体の男子部Aチームは19部で優勝。おまけに、人数不足で23部に陥落したオッサンチームBまでが、予選リーグ全勝で箱抜け確定、8月16日の決勝リーグに駒を進めました。実力？運？それは別として、体育館が蒸し風呂状態になる不快な季節に、楽しく羽根を打てたことに感謝しております。



また、今年は社会人大会が重なって恒例の神鍋合宿は見送りになりそうですが、8月の金曜日は、門真市民プラザにて青年協会でお馴染りになった講習会『ちょこっとバドミントン』の開催です。この講習は「小腹が空いた、ちょこっと食べよ」感覚でちょこっとスポーツをというコンセプトで、天才・越後屋と鬼才・悪代官によるちょこっと講習。内容も参加人数も、やることも「ちょこっと」なんて批判の声も聞こえてきますが、会費は「どばっと」いただきますからご安心を。

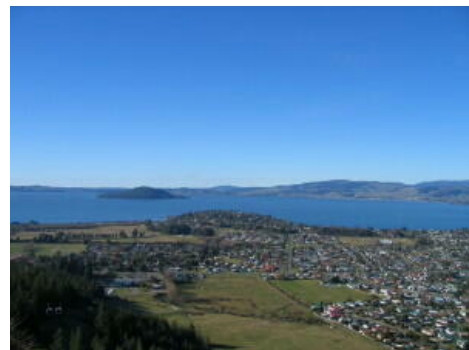


第17回二島杯も9月22日開催が確定し、申し込みを開始したところ、大会2カ月前にして参加表明者70名と好調な滑り出し。前回大会に参加して二島ファンになって下さった皆さんが、友人に声をかけてくれたみたいで、評判倒れにならないよう楽しい企画を考えなければなりませんね。



また、8月30日はルミエールホールにて門真市民ミュージカル「大冒険への旅」が上演されます。温度、湿度共に上昇する真夏ですが、本番に向けて100名以上の市民がリハーサルを続けていますので、時間に余裕のある方は、当日ルミエールホールまでお越し下さい。「作品」というより、努力の結晶、練習の積み重ねという意味での「感動」をライブで目にすることができますと思いますよ。

演劇の魅力は、大道具・小道具で美しく飾られた舞台に立てば、洪水のごとく降り注ぐ七色に輝く照明が自分のもとに、壮大なボリュームで豊富な水量の湧水のごとく流れる音響は自分のため、観客の全てが注目する中で叫ぶ一行のセリフ・・・そんなセリフで観客が泣いたり、笑ったり、感動したり。そんな瞬間を経験すれば、もう一度その場所に戻りたいと切望し、舞台中毒に陥ってしまいます。けれどもこれは、演出や裏方の皆さんや出演する仲間と共にリハーサルを続けた結果が、現れた瞬間なのですが、つい自分の力だと勘違いしてしまいます。あきれるか、自分もその場所に立ってみたいと思うかは、観客席から眺める皆さん次第ですが、一生懸命な姿に感動できることは間違えないと思います。



チケットは1500円。原則ルミエールホールで販売していますが、青年協会でも取り扱っていますので、興味のある方はお代官様まで声掛け下さい。

平成21年7月23日記

### 8月～ビューティフル・サンデー

爽やかな日曜、降り注ぐ太陽～なんて歌いながらお休みを過ごしますが、今月の話題は休日。ラケットを握らない休日の過ごし方です。冬場はラグビー観戦、長期の休暇は南半球、短期なら四国訪問というのが基本ですが、通常の日曜日は一般人しています。

お盆真っ最中の8月16日、箕面スカイアリーナ・社会人大会でBチームが最下部の決勝リーグで活躍したなら、「集中力の勝利」とか「大躍進」なんてテーマを選べたのですが、最下部といえども強豪チームばかりが決勝に進み、運だけでは勝てず、初戦敗退で寂しくスカイアリーナを後にしましたので・・・すば、すば、すば、素晴らしいサンデーについてブログする事にしました。

8月2日。京都・二条城を訪問。京都で外国人を案内するならこの場所。お濠に囲まれた城壁、建物に室内装飾品から庭園まで、ゆっくりと敷地内を歩けば新しい発見があります。今回は、二の丸御殿の鶯張り。歩いたら「キコキコ」音がする廊下ですが、ウグイスやったら「キコキコ」じゃなくて「ホーホケキョ」と鳴くべきやろ・・・などと突っ込みを入れながら、京阪沿線在住だからこそ、いつでもワビサビの街・京都にお出かけできる事に感謝しました。



8月9日。天王寺・ジャンジャン横丁と動物園を訪問。夏休み期間中は、大阪市所有の施設が無料開放ですから、こんな時こそ日頃行かない場所へレッツゴー。動くコアラも見られるし、サバンナ・ゾーンのシマウマにハイエナ。爬虫類館・アイファーなども一見の価値あります。ランチはジャンジャン横丁。生ビール片手に、どて焼きと串かつで乾杯。当然テーブルマナーは、きっちり守ります。すなわち「ソースの二度浸け厳禁」ですね。通天閣を含め、この新世界地区は大阪人の心の故郷って感じで、楽しい事がいっぱいです。



8月16日。箕面。滝とお猿さん、もみじの天ぷらが有名ですが、この日は何の用事だったっけ。

8月23日。京都・同志社大学。ちょっと資格試験に挑戦。たまには頭を使うのも大切な。



8月30日。門真・ルミエールホール。第4回わがまち門真市民ミュージカル「大冒険への旅」本番です。公演は2回。13時と17時開演です。感動したい人は、ルミエールに集合。お代官様も当日スタッフとして会場のどこかに居るはずですよ。



そんなビューティフル・サンデー。  
きっと、だ、だ、だ、誰かがボクを、ま、ま、ま、OH、待ってる。

平成21年8月18日記

### 9月～第17回二島杯

大会が近づくと、練習での話題が「いよいよですね！」とか  
「今回は何人集まりました？」とか  
「おやつは、ナンボまで？で、バナナはおやつに含みますか？」  
なんて期待と不安が入り混じったものに集中します。



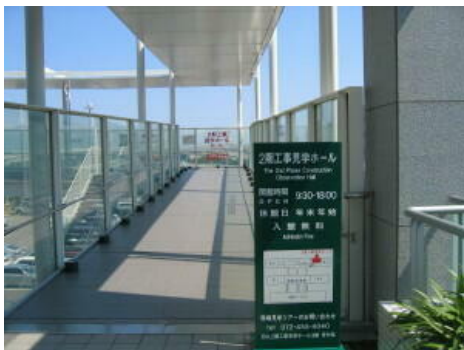
二島杯は元々、誰もが楽しめる大会を目指したもので、どこの大会に参加しても勝てないお代官様でも、勝利の美酒に酔えて、次も参加したいと思えるものを企画しているつもりです。

また、ガット張りの店「ネットイン」が、創業以来バックについてくれていますし・・・というより、通称・越後屋さんが、この商店を開業しなければ、二島杯は産まれていなかったかも知れません。それゆえ、ふたしまTシャツのデザインは、色合いは変われど「悪代官VS越後屋」を守っています。

先日も初めて二島杯に参加するご夫妻から、「誰が大会を進めるんですか？」という素朴な質問を受けました。

他の連盟や協会の大会で、本部席に役員が座って試合のコールをして、シャトルを渡して、集計して・・・なんて大変な姿を見てきた結果の疑問ですが、二島杯主催者としての回答は「あなたです。」

楽しく羽根を打ちたいと思って集まってくれた皆さんが大会を進めてくれます。



今回も、二島杯の楽しみ方を知っている12名の人をキャプテンに指名しましたので、キャプテンを中心に皆さんそれぞれが大会を作り上げてくれたら最高だと思っています。

大会10日前にして申込者109名。さてさて、定員の120名まであと11名。キャンセルが出たりして増減はあるとは思いますが、このページを読んで参加したいと思う人があれば、お代官様までご連絡下さい。



チーム編成抽選(20日の朝を予定)までの間なら定員に達しない限り出場可能ですので、ご一報下さい。

平成21年9月12日記

### 10月～時の流れに

♪おまえのために作った歌も忘れてしまった♪ 幾年ぶりに歩く町も姿を変え♪  
♪懐かしい友に会った、昔の面影はそのまま♪



これは、中村行延作詞、堀内孝雄作曲の「時の流れに」という名曲です。京都産業大学出身の二人が、故郷の上賀茂界隈を歩いて思いついた一節だったから妙に親密感が湧くのかも知れませんが、「緑立つ道」第二京阪道路の建設が日々進捗していく姿を見ると、変わり行くわが町・門真を思い、この名曲を口ずさんでしまいます。

門真と言えば、パナソニック？

誰もが知っている名所は、変わらぬ姿・三つ島神社の巨大クスノキの『薫蓋樟』、



堤根神社の裏にあるのは、最古の堤防の『伝茨田堤』、



南野口バス停の後方に控えるのは、再建された運河の『バツタリ』、



春は桜吹雪が舞い、水路周辺で焼き肉の香りが漂う『砂子の桜』、



最近では、大阪国体で建設された『なみはやドーム』などが並びます。



エッ、誰も知らないってか？まあ、そんな程度の中途半端な大阪市に隣接するちっぽけな市ですわ。けれども、ここが私の育った町で、これからも暮らしていく町です。

平成21年10月18日。風景を大きく変えた第二京阪道路の現場見学です。集合場所はP30付近。ライフ門真店の北側のバス通り(寝屋川大東線)と第二京阪道路の交差部分です。ヘルメットを借りて、工事用階段を登ること約20メートル。高架橋から眺める門真の街並み。病院・学校・ハス畑に生活道路、自分の家。お代官様は、マイヘルメットを被って橋面を歩きまわりました。一応、お仕事は、橋梁の建設関係ですから、プレキャストPC床版の仕上がり状況と、ジョイント部分の最新技術による騒音軽減方法など、住民としてだけじゃなく、技術者(?)としても現場の進捗状況を見学してきました。





開通は平成22年3月だそうですが、この付近は確かに完成すると思いますが、国道163号線との交差部分は大丈夫なんでしょうか？道路が開通すれば、公害が増えて、騒音・振動・大気汚染・電波障害・日照時間の減少など、心配することは山ほどありますが、この道に関しては、「緑立つ道」と命名しているように、現代土木の最先端技術を駆使した、地球に優しい道路となると思っています。そして、道路が完成して、わが町門真が良くなりましたなんて結果が出ることを期待しています。



♪人生はめぐりめぐり、立ち止まろうとはしない♪  
♪人の心も移り変わり、けれど愛は変わらない♪

平成21年10月18日 記

### 11月～伝承

第18回二島杯のテーマは「伝承」に決定しました。

日時は未定。予定として、2月末から4月初旬のどこかで開催しようと思っています。大会も回を重ねる度に良いものが出来上がっていき、チーム編成・進行・スタッフ・賞品・当日のドタキャン対策など考えたところ、前回大会以上のものを仕上げる自信がありません。というか、前回でお代官様が目指していた大会の完成型にたどり着いたのかも知れません。

次はどうするかを考えた結果は、



「例え人が変わっても、二島に行けば楽しい事が満ち溢れている。」なんて気分になっていただきたいので、回を重ねて作り上げた大会のノウハウを伝承してみたいと思っています。

また、二島杯参加をきっかけに、自分のチームの大会を企画したグループも何組か出ていますし、もっともっと楽しい大会が増えることを祈念しまして、このテーマで第18回を開催したいと思っています。



かつて青年協会のバドミントンを、プレーヤー中心から、イベント中心にシフトチェンジしようと考えた事がありました。

イベントが好きな人や新しい企画を提示してくれる人に権限を持たせて、肩書きが人を作るとか、他人を批判する力を新しい事を産み出す力にメタモルフォーゼさせるなんて、識者の言葉を信じて試してみましたが、要求ばかりして義務を果たさず。挙句の果ては外部で悪口を吹聴して、運営自体を妨害されたという苦い経験があります。

まあ、管理能力が無いとか、後進を育てる努力をしていないなどと言われ続けてもいますが、なかなか思うようには展開しませんね。そんな自分への反省の意味を込めて、今回のテーマは「伝承」



嫌だと思ふことを押し付けたりするのではなく、まずは、一番楽しい部分を伝えたいと思っています。  
これを読んで我こそは後継者と自負する人は一声かけて下さい。  
何かを伝承できるかも知れませんぞ。

平成21年11月18日記

### 12月～ダーバンとマンダム

師走12月、練習会に参加いただける皆さんにお知らせ。門真市内の小中学校の敷地内が平成22年1月1日より、全面禁煙になります。元々お代官様がタバコを吸わない関係上、二島小学校での練習は、マイ灰皿持参者以外禁煙を原則としていましたが、これからは、施設管理者サイドからの指示ゆえ、愛煙家の皆さんは、入場前に一箱くらい一気に吸って、練習中はひたすら我慢に努めて下さい。また、学校内で吸わなきゃ気が済まない人は、誰にも見つからない場所を探して、しっかりと見張りをつけて、証拠を残さないように。但し、見つければ、体育館を貸して貰えなくなりますから、代替りの練習会場を探す覚悟はしておいて下さい。



映画「さらば友よ」のラストシーンでは、友情の証として、黙って友のタバコに火を灯します。フランスのトップスターで男前の代名詞、アラン・ドロンが、ハリウッドスターで、男らしさの象徴、チャールズ・ブロンソンのくわえたタバコにマッチで火を点けるなんて姿がスクリーンいっぱいになると、しびれますよね。映画のストーリー自体はそれほど覚えていませんが、当時のテレビコマーシャルのダーバンとマンダムの主人公の、そんなシーンに憧れて(?)大人のアイテムとして、お代官様もタバコを吸っていた時代がありました。だいたい1日2箱程度を煙にしていましたから、1本にかかる税率を考えれば、今と違って高額納税者だったのですね。



さて、そんなお代官様がどうしてタバコをやめたのか？最大の理由は「行政への抵抗」ですね。  
タバコ1箱220円だったのが、消費税3%から5%への増額で230円になった時、本来は224円とすべきなのに便乗値上としか考えられない価格設定。  
JRの赤字をタバコ税で補填しているのに、支援者である喫煙者の座席のスペースを縮小するなどもっての外。本来は高額納税者席を設けて、心地よくタバコが吸える環境を整えてから赤字の補填をすべきだと思いませんか。  
また、禁煙運動もヒステリックだし、吸わない自由が認められるなら、吸う自由も認められるべきで、喘息の人の横では吸うべきじゃありませんが、もし吸う側がニコチン中毒という医師も認める病気ならどう考えるのでしょうか？まあ、人ごみの中で火を点けたままのタバコを持って歩いたら、それに触れて火傷する場合がありますし、火を消さずポイ捨てるなんてバカも居ます。  
そんなマナーの悪い非常識な愛煙家が、嫌煙者をヒステリックにさせているのかも知れませんが、タバコをたしなむだけで、そんなヤカラとひとくりにされるのも腹が立ちませんか。まあ、そんな理由で禁煙して、現在に至ります。



タバコをやめると、ごはん本来の味がわかるって感じで、食事がおいしくいただけ、少々太りますが、持久力が復活しバドミントンも強くなった気がするし、煙が嫌でパチンコにも行かなくなって、当然タバコを買うお金も不要になるので、お金が貯まっているはずですよ。(これについては、疑わしいのですが・・・)ともかく、良い事が増えたと思っています。  
さてさて、愛煙家の皆さん、門真市の教育施設の全面禁煙をきっかけにして、タバコをやめてみませんか？幸せが見つかるかも知れませんが。



平成21年12月20日記

### 1月～謹賀新年

あけましておめでとうございます。

「正月は何してます？」なんて聞かれると、答えは「なあ～んにも！」

テレビでラグビー観戦して、堺の裏代官の実家を訪問、初詣も地元・三つ島神社か堤根神社。遠出をしても住吉大社か今宮戎が関の山です。京都産業大学ラグビー部が大学選手権で勝ち残って国立競技場に行かない限りは、いわゆる寝正月。

この時期の最高の幸せは、テレビで見る寄席中継。元・宮川左近ショーの暁照夫師匠の「なんでこんなに上手いんやろ！」と自ら絶賛する三味線、海原はるか・かなたの髪の毛フウツ、笑福亭鶴笑の膝をついたら、着物に隠れていた下着のステテコと一緒に出てくる忍者のアプリケ(?)が暴れるパペット落語などが、お茶の間を席卷してくれるだけでワクワクします。さて、そんな寄席中継から、お代官様の大好きな芸人さんを2人紹介させていただきます。



最初は、絶対にすべらない芸人『Mr. ボールド』

一輪車に乗って登場し、客席に毒づいて、自慢のスキンヘッドに吸盤付きの羽根を投げさせ上手にキャッチ、やがては口にフォークを咥えてリンゴを投げさせ・・頭に命中させて、勢いよく半分に割って、バツリ倒れます。起き上がった一言

「わしゃ感情的になるで～！」

また、ドリフターズの「ひげダンス」は、この人の芸のパクリだって事は誰もが知っている事実ですよ。



### 続いてツチノコ芸人『テント』

劇場でもテレビでも簡単に発見できない超レアな逸品。両手の指を蜘蛛に見立てて対戦させたり、人間パチンコという芸術的なパフォーマンスが有名です。テント自身が、パチンコ台となって、ドラムロールを含めて、出てくる数字を表現します。

「グルグルぐるぐる、七(なな)、七(なな)・・・ななめ！」いつになったら数字が揃うか、本人にもわからないそうです。揃えば出玉をチーンジャラジャラと体力の続く限り全身で表現します。

あと、突然叫ぶ「ウィーツ！ウィーツ！ウイ！」

初めて見た日には、何じゃこれ～と否定的になりましたが、一度テントワールドに、はまってしまえば、笑いが止まりません。あまりの奥の深さに感動を覚えた事を思い出します。



もし、こんな芸人達がテレビに出てくれたら、正月から得した気分になれるのは間違いありません。けれど、こんな天才的な芸を誰かが、伝承してくれているのでしょうか。そんな事を考えながら、第18回二島杯の2月28日開催が決定しました。

テーマは「伝承」・・・案内は別のページをご覧ください。

それでは、本年もよろしくお願いいたします。





平成22年1月1日記

## 2月～里帰り

先月末、なんと2年振りに高松に凱旋しました。

主たる目的は、「四国観光達人スキルアップセミナー」への参加ですが、観光・交流・取材という意味でも、個人的な息抜きとしても最高のホリデイ(有給休暇で2日間)となりました。

大阪の友人が、四国を旅行する際に、旅のアドバイスを求めてくる事が多かったので、徳島で飲むならポッポ街の裏手の「とくさん」とか、中村では民宿に宿泊するに限るとか、丸亀から西へ11号線で行くなら鳥坂(とっさか)峠の交差点で、ホッカホカの「鳥坂まんじゅう」を買って一休み、松山空港の1階で揚げている四国の形の「じゃこ天」がウマイ・・・なんて、情報を発信していましたが、そんないつもの姿を、青年協会のサークルに。活動は、四国との交流。

やがては、達人と行く四国バスツアーなんてものを開催できたらと考えています。



まあ、情報発信する側として、昨年の出羽島に続いてセミナーに参加。他の参加者は、旅行業界にお勤めの人やボランティアガイドとして四国を紹介する尊敬すべき大先達の皆さんです。

今回は、四県バラバラの気持ちを一体化して広域な観光を推進して集客を目指すという基調講演。岡山県美咲町の「たまごかけごはん」で、町おこしをした実績と、卵の黄色をイメージカラーとして、岡山県を黄色に染めて、続いて瀬戸大橋も黄色に塗り変え色彩で地域を元気にしたいという発想の「黄福物語」の仕掛け人による先進事例の紹介。続いて今年の7月からスタートする瀬戸内国際芸術祭の紹介など。



夜は、四国観光達人が一堂に会し、各県の名物を肴に酒を酌み交わすなんて至福の時間。まあ、こんな交流会に参加するチャンスなど簡単に考えられないし、大先達の皆さんと四国の話ができて、楽しくて仕方ありませんでした。

また、この会場が、経営基盤が変われども、かつて定宿として宿泊していた場所だったり、ホテルの従業員の数人と挨拶を交わしたりもしました。



翌日は、実地研修として、瀬戸内国際芸術祭の舞台の一つでもある男木島を訪問。高松在住時代に女木島に海水浴には行きましたが、男木島までは足を伸ばして無いので、上陸するきっかけを探していたところズバツとストライクゾーンに命中。しかも、研修ゆえに無料。

けれども、自然に満ち溢れて素晴らしい島だとは思いますが、時期が少し早いせいもありますが、水仙もイマイチだし、映画の舞台の灯台もインパクトに欠けます。島の中学校も今年の生徒が3人ですが、卒業すれば生徒不在で学校閉鎖とか。



この島の将来はどうなるのでしょうか。瀬戸内国際芸術祭の開催で、アートによる島おこしが成立して人で賑わうのか、人が残らずアートだけが残った無人島になり下がってしまうのか・・・そんな将来はわかりませんが、他の島々を含めて、素材としては最高の場所ですから、一度は訪問して、皆さんにも島の将来について考えていただきたいと思っています。そんな理由で、このイベントを達人としてリコメンドしてみました。



島から高松に戻って、達人セミナーは終了。この後は、自由時間で、五色台に登って瀬戸大橋を思う存分展望。高松サティで、お土産として「大西の醤油豆」「宗家くつわ堂の瓦せんべい」「豆芳のひょうげ豆」などを買って、「一鶴の骨付鳥」をおいしくいただいて腹ごしらえ。

夕刻からは、もう一つの目的の青年協会会長の地域交流として県立体育館の「矯正バドミントンクラブ」の練習会に参加してきました。地域は違えども、羽根を打つ喜びを味わうのは一緒に、高松の古い仲間や新しい仲間と楽しい時間を共有しました。



それから3時間半かけて門真に戻りましたが、心の故郷・高松でリフレッシュして、お疲れよりも元気を貰った気分で2日間を過ごしてきました。

自分の原点を回帰するという意味でも、里帰りは大切です。二島クラブや青年協会を離れている皆さんもたまには、門真に里帰りしてはいかがでしょう。お金はありませんが、四国で培ったお接待の心で皆さんをお出迎えしたいと思っていますよ。

平成22年2月6日記

### 3月～日本

君が代は～千代に～八千代にさざれ～石の巖となりて～苔のむす～ま～で♪

今年開催のバンクーバーオリンピックで金メダルが貰えなくて、この曲が聞けなかったんで、ここで国歌を披露しました・・

じゃなくて、日本に生まれて何が一番素晴らしいか考えれば・・・「平和」？まあ、政治的・経済的な各個人の思想は別として、「四季がある事」だと思いませんか。

春は桜、卒業や入学で人が移り変わる季節。夏はギラギラ太陽で、秋は紅葉、冬はコタツに蜜柑。そんなバイオリズム的な一年周期が素敵で、「春になればなんちゃら！」なんて感じで目標を掲げ、「この秋はかんちゃらでした！」なんて過去を想います。



3月というのは、年度の終わりですから、日本のしきたりに従いまして、一年間を振り返ります。

今年度最も活躍したのは、健康保険証・・春は疲労で右肩が上がらなくなって整骨院2か所掛け持ち、夏は扁桃腺が腫れて高熱で救急病院、秋は自転車で転倒して膝を強打でMRI、冬はフグを食べて食中毒で全身にじんましんが出て皮膚科通い、おまけに、年度最後の二島杯前に仕切りネットを踏んで右肩強打で整骨院。まあ、他人に迷惑をかけるような事してないから良しとしますか。とりあえず、そんなこんなで大変な一年となりました。



で、二島クラブはそんな事に関係なく、二度の二島杯は大盛況、合宿は開催できなかったものの、社会人もAB共に昇部で目標は達成しています。青年協会も夏休みの講習会を開催し、プラザに定着した練習会も順調です。

ともかく、四季のある国・日本で平和な一年だったんでしょうね。

そして、来年度も平和な一年でありますように。



平成22年3月22日記

[We Can Fly～今月のお代官様2010](#)

Back  
[戻る](#)

---